

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201476		
法人名	株式会社 オールブルー		
事業所名	グループホーム 咲花多		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町1018番地2		
自己評価作成日	令和 2年 9月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保の港が一望できる静かな高台に建てており、美しい風景や船の行き来と楽しむことができます。また、夏には花火大会の花火をテラスで楽しむことが出来利用者、家族に好評となっています。事業所の建物も一般家庭的な外観で瓦屋根、平屋づくりで利用者が外出から帰ってこられるときには、「ああ、家に帰ってきた」との声が聞かれます。少人数のグループホームですが、家庭的な雰囲気大切に第二の我が家となることができるようにスタッフ一同笑顔でお手伝いさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

赤崎愛宕山の麓に位置する当ホームは、ホームフロア外の広いウッドデッキから佐世保港や遥か向こうの川棚の虚空蔵山(こくぞうざん)を臨むことができる。昨年8月に運営母体の変更があったが、職員一人ひとりが入居者の穏やかな生活の実現に向け、「笑顔追及、」の企業理念に基づきながら支援に取り組んでおり、入居者と職員両者の間には笑顔の絶えない温かなひと時が流れている。運営母体は佐世保市内にグループホームや小規模多機能事業所など介護事業所を多岐に展開している。ホームの情報について週1回ブログを更新し、入居者の最新の生活の様子を家族へ発信している。入居者の高齢化によりアクティブな活動は困難となっているが、入居者からは食事が美味しいと好評であり、食生活の楽しみが入居者の日々の意欲へと繋がっている。また、笑顔で食する入居者の姿が職員へ達成感を与え、より良い支援への活力となっている。今後も入居者と職員の笑顔が絶えず、更に地域に根差した支援に期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム咲花多

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔追及、をモットーに地域に根差した視点で、利用者が安心して楽しいひと時を送れるように努めることを信条としています。施設内に理念を掲示して一人ひとり意識にとめることができるようにしている。	「笑顔追及、」の理念のもと、職員は年度毎に個人目標を設定し日々の入居者支援に努めている。ホームでは毎月のミーティングで目標の達成状況を管理者とともに確認し、職員一人ひとりの職務に対する意識向上を促すことでキャリアパスへと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルス感染防止のため、地域とのつながりも閉鎖的になっていますが、書面での運営推進会議など、資料郵送の際に手紙を書いたり、電話にて近況を報告するなどつながりを切ることがないようにしている。	地域役員が運営推進会議メンバーであることから、会議を通じた情報交換や、会議開催に合わせた避難訓練に参加してもらうことで地域との協力関係を築いている。管理者は地域の年度末及び年度初めの総会や、月1回の地域会議にも可能な限り参加し地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、積極的な活動はできていないが、運営推進会議の際地域に住んでおられる高齢者について話題が上がったときなど認知症予防などについて話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や入退居状況等情報提供を行い地域の方から意見や感想等をいただきサービス向上にいかしている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員・地域役員・家族・入居者による構成メンバーで開催しており、入居者のホームでの生活や職員研修の状況、また、身体拘束適正化委員会や苦情・事故発生状況について報告している。ホームは各メンバーからの意見や質問にその都度対応することで運営の透明化を図っている。現在、コロナ禍の状況にあるため書面会議としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員や、市役所に出向き情報を伝えたり、市からの相談があった時にはその都度対応して協力体制を築くことができるように努めている。	ホームは地域包括支援センターとホーム空床状況について情報交換を行っている。また、市の生活福祉課や長寿社会課担当者とは各窓口に直接出向き、各種手続きやホーム運営に関する不明な点を質問しアドバイスを得ている。経営に関する変更については市指導監査課から運営等についての指導を受ける等行政との協力体制構築に努めている。	平成30年度法改正における「第三者評価実施状況等の重要事項として説明すべき内容」の4項目に関し、記載すべき内容や別途書類作成が必要かどうか市担当課に確認し対応することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ渦のため、現在は施設内で身体拘束適正化委員会を開催している。指針をもとにケアについて勉強を行っている。	ホームでは通常、運営推進会議の際に身体拘束適正化委員会を開催している。現在はコロナ禍の状況により書面会議としているため、それに伴い委員会も全職員参加によるホーム内会議としている。委員会では身体拘束の定義の再確認や事例検討などの勉強会も行っている。また、身体拘束に関するマニュアルを職員が定期的に見直し、いつでも振り返りや理解ができるよう事務室に整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の際虐待についての勉強会などを実施している。スタッフ同士で話し合いをし、考えを交換しあう関係性を構築できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い、必要な事例に立ち会った際に対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等疑問点に説明を重ね理解納得をしていただけるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などについては、介護記録に記載し、ミーティング等で職員間で周知しサービスの向上に努めている。	職員は入居者との日頃の会話や家族の面会時及び電話連絡の際に意見を聞き取っている。聞き取った意見は業務日誌や介護記録に記載し、職員間で回覧し情報を共有しており、閲覧したことを職員自筆のサインで確認している。ミーティングの際には入居者・家族より寄せられた意見について職員間で検討し、日々の支援に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場の業務に従事しており、普段よりスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。その提案をうけ代表者への進達も早くなっている。	管理者は入居者支援に関する職員の意見に対し、『まずは自分で試してみたい』との考えを持っており、職員の自主性を重視している。また、職員間で積極的に意見が出せるよう雰囲気づくりを工夫し、職員からのプライベートな悩みに関しても気軽に相談できる環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件等の整備に努めている。また、スタッフがやりがいをもって業務にあたることできるように環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染予防に伴い、施設外での研修は辞退している。施設内研修として月1回のミーティングの際に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修や近隣施設合同での研修行事などを通して交流を図り、情報交換を行い質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入するにあたって、希望やニーズ把握のための面談を行っている。また、それまで利用されていたサービス機関にも情報提供を依頼し、よりご本人を知ることができるように援助を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからも面会時に近況報告や定期的な電話連絡などいつでもご家族が相談しやすい雰囲気関係づくりを考え対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報やアセスメント作成時に情報収集を行い相談内容に応じて、医療、相談機関等の利用を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や習わし、畑づくり等で利用者から学んだり、洗濯物たたみ等のお手伝いをしていたり支えあう関係をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、面会等制限をかせかせていただいている。つながりが途切れることがないように電話をかけたたり、利用者の写真を郵送したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのものを居室内に持ち込めることをご家族につたえている。現在は、感染予防のため、制限をかけているが、外出をご家族と自由にしていただけるように声掛けしている。	ホームでは入居時に入居者本人の生活歴を聞き取るほか、普段の会話の中でも入居以前の馴染みの場所や知人・友人について把握し、日々の支援に活かしている。コロナ禍前には競馬が趣味だった方と競馬場に通ったり、相撲が好きの方は趣味活動としてテレビ観戦を行ったりしている。また、入居者馴染みの店への買物同行など個別支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察から利用者同士の相性を把握し、座席の位置や利用者同士の関わり合い、まとまりがある人間関係づくりにと努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に必要な相談に応じ、サポートを行うことを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、利用者一人ひとりと向き合い希望や思いをくみ取ることができるように努めている。	職員は日頃のコミュニケーション時に発した入居者の言葉や動作に対する職員自身の気づきのほか、家族面会時の会話や相談対応などについて業務日誌や個人記録に適宜記録し、職員間で情報を共有している。家族との相談の中で急を要する内容についてはミーティングで話し合い、迅速に対応できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やこれまで利用していたサービス等から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での情報の共有ができるようにしている。定期的なアセスメントを実施して現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族へ定期的に要望を聞くようにしている。スタッフ間でもミーティングにて情報共有を図っている。	ホームでは入居者との日頃の会話や家族の面会時及び電話連絡の際に聞き取った暮らしの意向をもとに、月1回行うモニタリング会議で検討している。計画作成担当者はモニタリング会議で検討した内容や、業務日誌・個人記録等の各種記録類をケアプランの内容に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて情報を共有している。日頃の気づきや工夫について特記としてあげ全スタッフと共有できる業務日誌、個人記録づくりを行っている。またそれを活用し介護計画の見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と協力し、急なニーズに対応できる環境づくりを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでとれる野菜を収穫したり、日頃の暮らしの中で、楽しみを見つけることができるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医がおられる場合は希望に沿った対応ができるよう支援している。現在は施設が連携している主治医に依頼している。	入居者のかかりつけ医について、ホームでは入居時に入居者本人及び家族の意向を確認している。現在は全入居者がホーム提携医をかかりつけ医としており、月2回訪問診療がある。他科受診については家族対応を基本とし、家族からの受診結果報告を記録し、適宜ホーム提携医へ報告している。入居者の急変等緊急時には必要に応じて往診があるほか、看取りにも対応するなど、手厚い医療体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護ステーションの看護師に状態観察依頼している。適切な受診基準などの相談などに応じてもらうことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、安心して治療をうけることができるように医療機関との連携を密にして対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化した場合や終末期の在り方について事前にアンケートをとるようにしている。実際主治医より終末期の話が合ったときは、主治医家族の話し合いに同席チームでターミナルケアに当たっている。	ホームでは看取りを行う方針としており、看取り指針を重要事項説明書へ記載するとともに、入居時に入居者本人及び家族の希望を確認し、説明・同意を得ている。看取り期は主治医であるホーム提携医が判断し、今後の対応等について家族へ説明を行っている。看取り期に至った場合にはホーム提携医が毎日訪問するため職員は指示を仰ぐことができるほか、夜間帯は管理者が対応することで職員の不安感を軽減することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に伴って、日頃より主治医より指導を受けている。またその都度対応に対しての指示があるため落ち着いた行動をとることができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害などの際のマニュアルをスタッフ間で周知している。毎年実施されているグループホーム連絡協議会での避難訓練にも参加している。	避難訓練は消防署立ち会い及び自主訓練を実施し、運営推進会議開催に合わせて訓練を行うことで地域の方も参加している。訓練では各居室入口に設置した照明付きヘルメットで入居者の避難時の安全を確保するほか、ヘルメットが入口にないことで避難済みであることを確認できるよう工夫している。備蓄品についてはホーム内各所に配置・収納しており、計画作成担当者が管理している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬した言葉かけや物事の教えを乞い、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	ホームでは接遇マナーに関する外部研修を全職員が受講できるようにするほか、年1~2回の内部研修についても計画・実施し、接遇に関する振り返りの機会を設けている。職員は入居者に自分の時間を気持ち良く過ごしてもらうことを大切に、居室内での過ごし方など入居者個々の生活パターンやプライバシーを考慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活であることを踏まえたうえでできる限り希望にそった介護を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添ったペースを優先している。それによって職員側が臨機応変に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着る服を選ばれたり、できない方にも要望を尋ねる等コミュニケーションをとりながら支援している。理美容時には、自分でヘアについてコメントしながらカットされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事状況を見ながら食べやすい食事形態にて対応をしている。	入居者からは食事が美味しいと好評であり、食生活の楽しみが入居者の日々の意欲へと繋がっている。ホームでは入居者から希望があれば翌月の献立に取り入れ、個々のリクエストに応じた食事を提供している。また、入居者の咀嚼・嚥下能力に応じた食事形態での提供に努めており、ミキサー食の場合には何を食べているのか本人が認識できるよう食材別の調理や原形に近い状態で提供し、食事介助時にも説明しながら提供するよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医指導のもとたんぱく質を多くした食事提供をしたり、水分量などの確保のために、好まれる飲み物を提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科ケアを依頼したり、毎食後口腔ケアの声掛けを行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に日中の本人のパターンを知り定期的にトイレ誘導を行いトイレで排泄ができるように援助をしている。	職員は排泄チェック表をもとに入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別での声掛けや誘導によるトイレでの排泄支援に努めている。居室でポータブルトイレを使用している方について、日中など使用していない場合はカバーを掛けるなど目隠しを行い、プライバシーの配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌を多く含んだ食材を取り入れる等配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴時間などを配慮した声掛けをしている。おおまかな時間や曜日等にはしているが、体調や気分により変更可能な日程にしている。	ホームでは週2回入浴日を設定しているが、入浴拒否や体調不良等でその日に入浴できなかった場合は入浴を翌日に変更したり、毎日入浴できるよう準備したりするなど、入居者の状況に応じた支援に努めている。また、菖蒲湯や柚子湯で季節が味わえる入浴支援も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後リビングで過ごされたり、居室でゆっくりされたり様々だが、本人のペースでゆっくりと生活ができるように援助している。また、室内の温度調整や灯りなど定期的に巡回して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セット時は2人で確認作業を行っている。処方があった時には薬処方用紙に記入をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意な分野を考慮し利用者と相談をしながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出制限をさせていただいている。	現在、新型コロナウイルスの影響で外出支援を自粛しているが、コロナ禍以前は季節毎の花見やドライブ、個別での買物支援など日常的な外出支援に取り組むことができていた。管理者はコロナが終息し、本来の日常が戻ってきた際には以前のような外出支援を再開する意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じて金銭管理をしており、外出や使用する時に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っており、家族にも協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさや光の強さにたいする配慮は必要に応じて行っている。リビングには季節に応じて壁飾りや生花を飾る等家庭的な雰囲気づくりを行っている。	ホームフロアは掃き出し窓の外から吹く海風が入り日当たりも良いことから、入居者にとって居心地の良い空間となっている。入居者の中には朝日が昇る際には朝日に礼拝し、夕日に感謝し手を合わせる方もいる。職員は採光の調整や換気を定期的に行い、不快感のない共有空間づくりに努め、季節に応じた壁飾りで入居者に季節の変化を感じてもらえるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで過ごされたり、お気に入りの空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み品物に制限は設けていない。使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。ご本人が写真を貼ったり自分が使いやすい空間にしている。	ホームでは入居者に馴染みの物を使用してもらうことで、以前からの生活が継続できるよう配慮している。職員は、室内にテレビを設置し居室でゆっくりと過ごす方や、家族の写真を室内に飾り家族に見守られながら過ごす方など配慮し、入居者にとって居心地良い時間を過ごす居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用や杖使用など様々だが、ご本人の意欲に応じた介護を心がけている。自分の出来ることを自分でしたりと思われるよう意欲を促す声掛けを心掛けている。		